

と呼ばれた概念を含む)などに分類される。肥満関連型が最も多い。悪性型では口囲に出現しやすい。

病理所見

乳頭腫、過角化、基底層の色素沈着を3主徴とする(図15.45)。acanthosis nigricansという病名ではあるが、表皮肥厚(acanthosis)はみられないことが多い。

診断・治療

臨床症状から診断する。悪性型では、内臓悪性腫瘍に先行ないし同時発生する 경우가70%以上を占めるため、癌の早期発見にもつながる。基礎疾患の治療や肥満の改善により皮疹も軽快する。

7. 融合性細網状乳頭腫症 confluent and reticulated papillomatosis

体幹(とくに乳房間, 上腹部)に灰褐色の色素斑~角化性丘疹が生じて, それらが融合して網目状の局面を形成する(図15.46)。思春期から青年期に多く発生し, 慢性に経過する。自覚症状はない。原因不明であるが*Malassezia*属感染の関連が示唆されている。抗真菌薬外用, ミノサイクリン内服などが行われる。

8. 腫瘍随伴性先端角化症 paraneoplastic acrokeratosis

同義語: Bazex 症候群 (Bazex syndrome)

四肢末端, 鼻尖, 耳介などに対称性に乾癬に類似した紅色局面が出現し(図15.47), その数か月後に内臓悪性腫瘍が顕在化するものをいう。40歳以上の男性に多く, 食道, 肺, 咽頭, 喉頭の扁平上皮癌を背景とすることが多い。角化病変は悪性腫瘍の病勢に並行する。

9. 鱗状毛包性角化症 (土肥) keratosis follicularis squamosa (Dohi)

体幹, とくに腰部, 腹部, 殿部に毛孔に一致した黒点が左右対称性に生じ, それを中心に3mm~1cm大の灰白色, 円形葉状の鱗屑が付着する(図15.48, 15.49)。自覚症状はない。青年期に好発する。

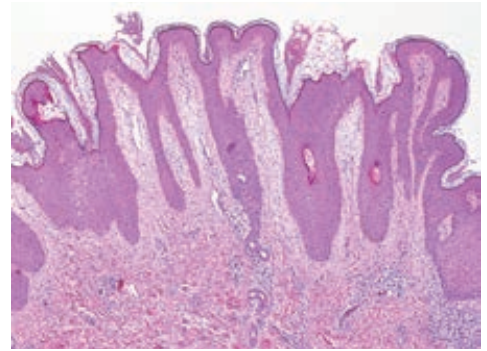


図 15.45 黒色表皮腫の病理組織像

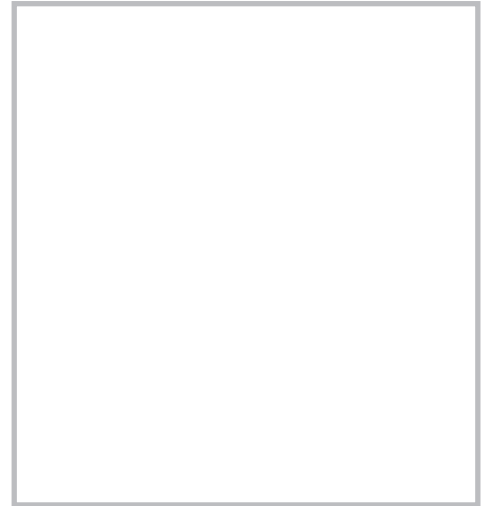


図 15.46 融合性細網状乳頭腫症 (confluent and reticulated papillomatosis)



図 15.47 腫瘍随伴性先端角化症 (paraneoplastic acrokeratosis)